

令和8年7月3日

中小企業技術振興課
直 通：092-643-3433
内 線：3728、3725
担 当：川口、石川

福岡県工業技術センタークラブ「先端技術シンポジウム」を開催

～会員企業と工業技術センターが共同開発した成果事例などを発表～

福岡県工業技術センタークラブ※は、地場の企業と福岡県の技術支援機関である福岡県工業技術センターとの「連携・共創」による技術開発の促進を目的に活動しています。

この度、7月21日（火）に先端技術シンポジウムを開催し、特別講演のほか会員企業と工業技術センターの共同開発事例等を発表します。

※…平成13年に設立。会員企業数は255機関（令和8年6月現在）。

- 1 日時 令和8年7月21日（火） 14:00～17:10
- 2 場所 福岡リーセントホテル（福岡市東区箱崎2-25-1）
- 3 プログラム

14:00 来賓挨拶（福岡県副知事 江口 勝）

14:10 特別講演

「日本のモノづくりが医療機器で花開いた奇跡」

藤井精工株式会社 医療事業部長 兼 責任技術者 ^{くらまえ}蔵前 ^{のりふみ}法文 氏

15:20 共同製品開発成果の事例発表

「国産天然染料「ウルシ」の新しい草木染め ^{こうしつぜん}黄漆染」

（有）^{めいこう}明光メディカル

「再生医療に必要な、高品質な幹細胞の生産に資する完全閉鎖系自動培養装置の開発」

（株）アステック

「「何に塗る？」^{うるし}漆で仕上げるプロダクト（アイテム・デザイン）の開発」

^{うるしこうぼういわや}漆工房岩弥・スタジオ・ヨー

「溶接レス、カシメ接合技術 J m e c ®の開発」

松本工業(株)

16:20 成果ポスター発表（会員発表7件、工業技術センター発表21件）

4 参加費 無料（ただし、シンポジウム終了後の交流会に参加する場合は3,000円）

5 参加申込

7月10日（金）までに右の二次元バーコードまたは参加申込ページ
（<https://shinsei.pref.fukuoka.lg.jp/NkBnU3uu>）からお申込みください。



参加申込はこちら

★ 報道機関の皆さまへ

取材を希望する場合は、事前に下記担当者までお問い合わせください。

福岡県工業技術センター 企画管理部 情報交流課 担当：^{ひろよし}廣藤、^{しゅうぜんじ}周善寺

TEL：092-925-5977 FAX：092-925-7724 E-mail：c.club@fitc.pref.fukuoka.jp



センタークラブHP

特別講演

日本のモノづくりが医療機器で花開いた奇跡

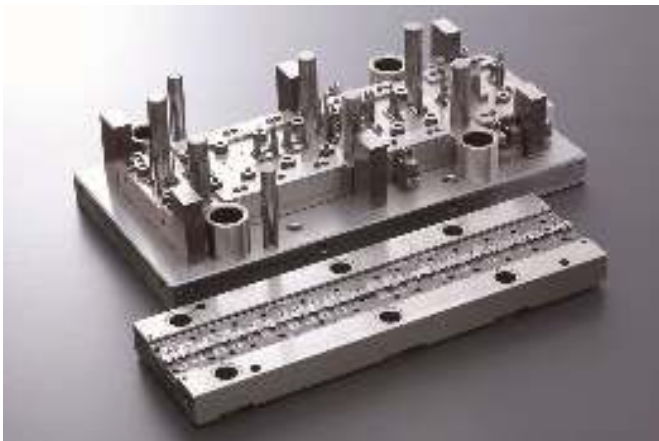
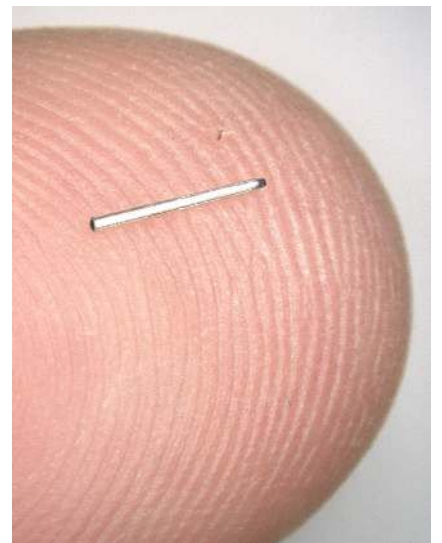
藤井精工株式会社
医療事業部長 兼 責任技術者
蔵前 法文 氏



【講演概要】

1976年に創業された藤井精工株式会社は、半導体等で培った超精密金型技術を武器に、低侵襲治療が進む医療分野へ進出。世界に数台のレーザー加工機導入を足掛かりに世界最小級のステント挿入部品の量産手法を確立され、「取引先企業にとって不可欠な存在」へと成長されました。また、女性の積極雇用や柔軟な働き方の導入で地域雇用の拡大にも貢献。今後は、医療分野の売り上げ拡大と金型技術を核としたメディカルタウン構想を掲げ、日本のものづくりの世界的な発展を目指しておられます。

ご講演では異分野参入の経緯やその後の展開、そして、海外企業と関わって感じられた日本のモノづくりの可能性についてお話しいたします。



【講師略歴】

鹿児島県出身。

2001年3月に九州工業大学情報工学部機械システム工学科卒業後、藤井精工株式会社に入社され、技術部設計課に配属。

その後、技術部開発課課長、技術営業部部長を歴任され、2019年4月から現在に至るまで医療事業部事業部長を務める。

▶ センタークラブ会員様、工業技術センターの共同開発事例です。

A-01

ナノテク・材料技術部会 国産天然染料「ウルシ」の新しい草木染め 黄漆染(こうしつぜん)

有限会社明光メディカル 三木 博文
化学繊維研究所 繊維技術課 専門研究員 泊 有佐

講演要旨

国産ウルシの生産量は限られており、漆器製造に必要なウルシの多くが輸入に依存しています。文化庁の方針により、2018年からは国宝等の保存修理には国産ウルシを使用することになりましたが、供給が追いついておらず生産拡大が求められています。国産ウルシの増産を目指した取り組みとしてウルシ採取後の未利用資源として残る芯材に着目し、そこから染色液を抽出して漆染めに応用しました。染色液はウルシが本来持つ抗菌・防臭作用を保持しています。発表では、開発した繊維ブランド「黄漆染(こうしつぜん)」をご紹介します。



図1 ロゴマーク



図2 アームカバー

A-02

バイオ技術部会

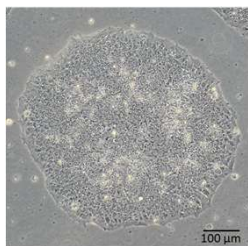
再生医療に必要な、高品質な幹細胞の生産に資する
完全閉鎖系自動培養装置の開発

株式会社アステック 福岡営業所 副所長 坂井 孝則
生物食品研究所 生物資源課 専門研究員 古賀 慎太郎

講演要旨

多能性幹細胞(iPS細胞)は、多様な種類の細胞に変化する能力を持っています。幅広い組織の再生医療への応用に向けた研究開発が進められており、実用化には大量の細胞が必要となります。しかし、人による判断と作業に依存した従来の細胞培養技術には、細胞の品質管理や生産性等に課題があり、培養工程の自動化が求められています。

本発表では、上記の課題を解決するための、AIによるiPS細胞の品質管理技術や生産性向上技術、ならびに自動培養監視技術等を搭載した、完全自動型培養装置の開発成果についてご説明します。



ヒトiPS細胞写真



完全閉鎖系自動培養装置「CELLA i4.0」

▶ センタークラブ会員様、工業技術センターの共同開発事例です。

A-03

デザイン部会

「何に塗る？」漆で仕上げるプロダクトの開発

漆工房 岩弥 代表 近松 敏夫

スタジオ・ヨー 溝口 瑛

インテリア研究所 技術開発課 研究員 隈本あゆみ

講演要旨

八女福島仏壇仏具協同組合では伝統的技法の継承・発展のため漆塗り技術の新たな展開を目指しています。同組合員である漆工房 岩弥の新しい挑戦に対し、インテリア研究所では、開発製品のコンセプトを練り上げて全国のデザイナーとマッチングするNIKAWA事業により、オリジナル製品の開発を支援しました。漆工房 岩弥が掲げる「漆塗りの良さを伝える」をコンセプトに、マッチングしたデザイナー スタジオ・ヨーとの共創による漆の新たな世界観を表現した製品「time」が誕生しました。発表では、デザイナーを交えて製品コンセプトの検討から形にするまでの開発経緯についてご紹介します。



time発想の原点となる漆塗りの工程見本

A-04

部会名

溶接レス、カシメ接合技術Jmec®の開発

松本工業株式会社 取締役 技監/Jmec事業部長 早川 弘幸

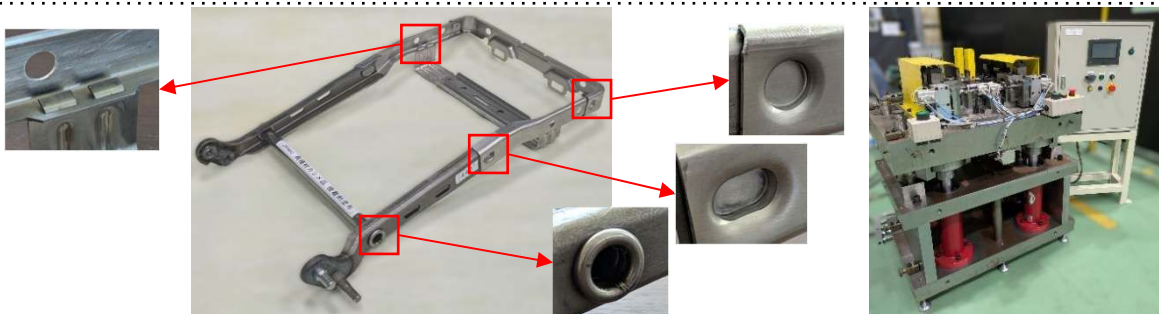
機械電子研究所 機械技術課 専門研究員 内野 正和

主任技師 中井 太地

講演要旨

自動車業界ではカーボンニュートラル実現のため内燃機関から電動モータへの移行が進められていますが、車両製造時のCO₂排出も課題となっています。自動車関連部品の製造を受託する松本工業株式会社では、CO₂排出量が多い溶接加工をカシメ構造に置換する接合技術Jmec® (ジェイメック)の実用化に取り組んでいます。

発表では、成長型中小企業等研究開発支援事業 (Go-Tech) を活用した、カシメ接合技術の高度化、及び、特殊金型を核とする同時多点カシメ加工技術の研究開発をご説明します。



異種材料組合せ（鉄+アルミ）のひじ置き骨格

Jmec®特殊金型と加工設備



福岡県工業技術センタークラブ 先端技術シンポジウム

参加無料

定員150名

福岡県工業技術センタークラブは、地場の企業と福岡県の技術支援機関である福岡県工業技術センターとの「連携・共創」による技術開発の促進を目的に活動しています。下記の内容でシンポジウムを開催しますので、多数のご参加をお待ちしております。

14:00～ 挨拶

14:10～ 特別講演 藤井精工株式会社 医療事業部長 兼 責任技術者 蔵前 法文 氏

「日本のモノづくりが医療機器で花開いた奇跡」

1976年に創業された藤井精工株式会社は、半導体等で培った超精密金型技術を武器に、低侵襲治療が進む医療分野へ進出。世界に数台のレーザー加工機導入を足掛かりに、世界最小級のステント挿入部品の量産手法を確立され、「他社にとって不可欠な存在」となられました。また、女性の積極雇用や柔軟な働き方で地域雇用にも貢献。今後は、医療分野の売り上げ拡大と金型技術を核としたメディカルタウン構想を掲げ、日本のモノづくりの世界的な発展を目指しておられます。

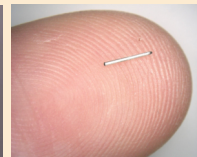
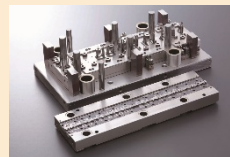
ご講演では異分野参入の経緯やその後の展開、そして、海外企業と関わって感じられた日本のモノづくりの可能性をお話しいたします。



蔵前 法文 氏

【講師略歴】

鹿児島県出身。2001年3月に九州工業大学情報工学部機械システム工学科卒業後、藤井精工株式会社に入社され、技術部設計課に配属。その後、技術部開発課課長、技術営業部部長を歴任され、2019年4月から現在に至るまで医療事業部事業部長を務める。



15:20～ 会員企業と工業技術センターとの共同製品開発事例発表

- ①『国産天然染料「ウルシ」の新しい草木染め こうしつぜん 黄漆染』 有限会社明光メディカル ・ 化学繊維研究所
- ②『再生医療に必要な、高品質な幹細胞の生産に資する完全閉鎖系自動培養装置の開発』 株式会社アステック ・ 生物食品研究所
- ③『「何に塗る？」漆で仕上げるプロダクト(アイテム・デザイン)の開発』 漆工房 岩弥 スタジオ・ヨー ・ インテリア研究所
- ④『溶接レス、カシメ接合技術Jmec®の開発』 松本工業株式会社 ・ 機械電子研究所

16:20～ ポスター発表

・会員企業の成果事例・技術等の発表

- ① 株式会社SING
- ② 位登産業株式会社
- ③ 株式会社バイオ・シータ
- ④ アスカコーポレーション株式会社

・特別会員からの支援メニュー紹介

・福岡県工業技術センターのシーズ技術等の成果発表

17:20～ 交流会(参加費3,000円)

2026年7月21日(火) 14:00～17:10 (受付13:30～)

福岡リーセントホテル (福岡市東区箱崎2-52-1)

主催:福岡県工業技術センタークラブ 共催:福岡県工業技術センター

